

園長だより「言ってはいけない」第23号

園長だよりでお子さんの自己肯定感を育むことがとても大切であるということは何度も書かせていただきました。小学校の現場では30年以上も前から子ども達の自己肯定感が低下傾向にあることに危機感を持つ教諭は少なくありませんでした。自己肯定感や自律心というような「見えない学力」（非認知能力）が低下することによって、荒れる学校が増え、それに伴って「見える学力」（認知能力）も低下する学校が増えていきました。危機感を持った学校現場では子ども達の自己肯定感を育むための取り組みを工夫し、実践するようになりました。文部科学省が毎年実施している全国学習状況調査にも「自分にはよいところがある」という設問があり、子ども達の自己肯定感を数値として可視化できるようにしています。今回はお子さんの自己肯定感を高めていくために絶対に言ってはいけない言葉をご紹介します。

「そんなこともできないの」という能力否定

この言葉は「できないあなたは無能」と言っているのと同じです。年齢や一人一人の成長度によってできるできないがあるのは当然です。兄弟やお友だちと比べたりしないでお子さんをしっかり見つめていれば大丈夫。お子さんがどこでつまづいているのかを考え、どうやったらできるかをお子さんと一緒に考えてあげてほしいと思います。できることに目を向けてスモールステップでお子さんに達成感を味わわせてください。

「そんなことは常識」という価値観否定

子ども達は私たち大人とは違う世界観で生活しています。価値観が違うということです。大人にとって取るに足らないことであっても大切であったり、逆に大人が大切に考えていることがそうでもなかったりします。お子さんに大人用の服を着せておられる方はいませんか。お子さんはお子さんに合った服を着ているということです。お子さんの価値観を否定することなく、まずは受け入れてあげてください。

「あなたはあかん子」という存在否定

この言葉はお子さんの存在を否定しています。存在を否定されて傷つかない人はいませんよ。ね。「産まなきゃよかった」「あなたはもらわれてきた」なんていうのは最悪の言葉です。一時の高ぶった感情に負けて口にすることが絶対無いようにしてください。

逆にお子さんの存在を肯定する言葉かけはたっぷりしてあげてくださいね。

「愛しているよ」「生まれてきてくれてよかった」「〇〇ちゃんがいてくれるから嬉しい」少し照れくさいかもしれませんが、ハグハグしながら、皆さんのお子さんを心から愛する気持ちを伝えていただければと思います。自分は愛されているという安心感がお子さんの自己肯定感を育んでいくことになります。